

科目名	環境都市工学演習（２） Civil Engineering Exercises II	科目コード	51080
-----	---	-------	-------

学科名・学年	環境都市工学科・４年（プログラム１年）
担当教員	環境都市工学科全教員
区分・単位数	履修単位科目・必修・１単位
開講時期・時間数	後期，３０時間【内訳：講義０，演習２６，実験０，見学０，その他４】
教科書	香坂文夫 「S Iで攻略土木計算」 オーム社 １９９７．１１
補助教材	
参考書	

【A. 科目の概要と関連性】

前半の授業では、卒業研究でおこなうプロジェクトの課題を選定し、関連の基礎知識を習得するために、配属された研究室で学習する。後半の授業では、専門科目の演習問題を解き、高専での４年間の学習到達度を確認する。

○関連する科目：卒業研究（次年度履修）

【B. 「科目の到達目標」と「学習・教育到達目標」との対応】

この科目は長岡高専の教育目標の(D)と主体的に関わる。

この科目の到達目標と、成績評価上の重み付け、各到達目標と長岡高専の学習・教育到達目標との関連を以下の表に示す。

科目の到達目標	評価の重み	学習・教育到達目標との関連
① 卒業研究のための準備活動（課題の選定など）をおこなう。	25%	(g1)
② 卒業研究の遂行に必要な基礎知識を習得する。	25%	(e1)
③ 都市施設や環境関連施設の構造的な特徴や機能を理解する。	50%	(d1)

【C. 履修上の注意】

各研究室での学習は、次年度に受講する卒業研究の準備段階として重要である。卒業研究でおこなうプロジェクトの課題の発掘や、その遂行に必要な基礎知識の習得に努めることを期待する。

教科書（問題集）の内容は、就職試験や編入学試験の準備に適したものになっている。後半の授業に予定されている試験（５回）は、教科書での学習の到達度を測るものになっている；しっかりと自学して受験することを期待する。

【D. 評価方法】

次に示す項目・割合で達成目標に対する理解の程度を評価する。50 点以上を合格とする。

- 定期試験（0%）
- その他の試験（50%）
- レポート（50%）
- その他（0%）

【E. 授業計画・内容】

● 後期

回	内容	備考
1	ガイダンス	
2	配属された研究室での専門知識の習得（1）	
3	配属された研究室での専門知識の習得（2）	
4	配属された研究室での専門知識の習得（3）	
5	配属された研究室での専門知識の習得（4）	
6	配属された研究室での専門知識の習得（5）	
7	配属された研究室での専門知識の習得（6）	
8	配属された研究室での専門知識の習得（7）	
9	教科書（問題集）による専門科目の学習（1）	
10	教科書（問題集）による専門科目の学習（2）	
11	試験（第1回）	
12	試験（第2回）	
13	試験（第3回）	
14	試験（第4回）	
—	前期末試験	試験期間のため休講
15	試験（第5回）	